

ラデフ大統領夫妻の訪日

2025 年 5 月 22 日

5 月 17 日から 21 日まで、ラデフ大統領夫妻は、日本政府招待で訪日しました。

【ポイント】

- 石破総理大臣とラデフ大統領との間で戦略的パートナーシップが署名されました。
- 天皇陛下謁見、両国史展示会の高円宮妃による鑑賞など皇室との交流を深めました。
- 額賀衆議院議長主催夕食会（茂木衆議院議連会長も御出席）、石井参議院議連会長も出席するブルガリア・デー・レセプション等で議会との交流を深めました。
- 藤井外務副大臣出席のもと、万博ブルガリア・デーが多数の来場者を迎え開催されました（4 月以降の来場者 5 万人以上）。
- 150 社以上を迎えたJETROビジネス・セミナー、経団連、東芝、理研等訪問が行われ、ラデフ大統領が日本企業への支援を改めて約束しました。
- ラデフ大統領の百里基地訪問、早稲田大学講演会、奈良の寺社訪問等が実施されました。

【本文】

1 戦略的パートナーシップ署名（5 月 20 日）



(1) 5 月 20 日、石破総理大臣とラデフ大統領は会談、共同記者発表及びディナーを行い、その際両国関係を戦略的パートナーシップに格上げする「日・ブルガリア戦略的パートナーシップ構築に関する共同声明」に署名しました。

(2) 両首脳は、下記の点をそれぞれ強調しました。

ア 石破総理大臣

EU・NATO 加盟国であり、価値・原則を共有する同志国であるブルガリアとの関係は安全保障上も重要である。経済面でも、東芝、明治など日本企業がブルガリアに戻りつつあり、特に地域のイノベーション・ハブを目指すブルガリアとの間で、両国の IT・AI やエネルギー分野の協力も進展している。

イ ラデフ大統領

ブルガリアは、最早バラ、ヨーグルトではなく、IT／AI など地域のイノベーション拠点である。こうした高度人材、有利な税制によって域内の有利な投資拠点でもある。日本企業の投資を歓迎し、自分自身もイニシアティブをとり、日本企業を一層支援して

いく。

(3) 戦略的パートナーシップのポイントは以下のとおり。

●両国の長年の相互の敬意及び新たな国際情勢の下で NATO・EU 加盟国として発展したブルガリアと「欧州とインド太平洋の安全保障は不可分」との認識を共有し、安全保障協力を高めること。世界中どこでも力による一方的な現状変更を認めない。

●露のウクライナ侵攻、北朝鮮の核開発を非難し、日 EU、日 NATO の文脈でも日本とブルガリアとの協力を強化する。

●日本ビジネスがブルガリアに戻りつつある。日本が地域のイノベーション・ハブとしてのブルガリアとIT・AI、産業技術、エネルギー等分野で協力を深める。

●文化交流、留学生等人的交流、地方自治体交流、観光、教育等協力を深める。

2 皇室との交流

(1) 天皇陛下謁見(5月19日)



ラデフ大統領は、天皇陛下に対し、概ね以下のようなメッセージを伝達しました。

ア 両国が長年誠実な友情及び相互信頼を育んできたことが示すように、二国間関係では人と人との交流が最も重要。

イ ブルガリアは、ヨーグルト、バラだけでなくハイテク技術を開発する国として日本でも知られつつある。IT、AIなどで交流発展の大きな可能性がある。

ウ 両国関係で戦略的パートナーシップに格上げされることは必然である。自分も日本との関係を引き続き後押しする。天皇陛下にもブルガリアを訪問いただきたい。

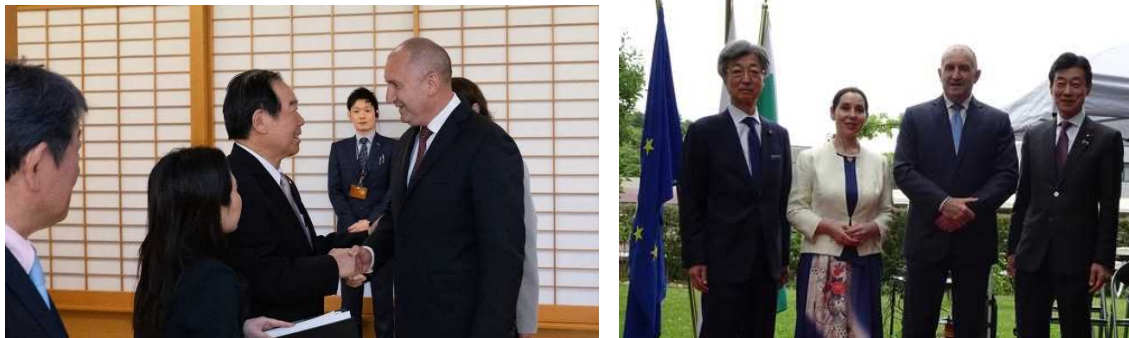
(2) 両国史展示会への高円宮妃御出席(5月19日)



19世紀以降、日・ブルガリア両国が公式の交流を開始してから現在までの歴史を

多数の写真や歴史的資料で振り返る展示会が早稲田大学で開催され、高円宮妃も来場され、ラデフ大統領夫妻とともに展示会を観覧されました。

3 議会との交流(5月19日)



昨年9月にブルガリアを公式訪問し、その際ラデフ大統領とも会談された額賀衆議院議長が、大統領訪日に際して夕食会を主催され、茂木衆議院議連会長ほかも出席されました。また、在京大使館主催ブルガリア・デーレセプションが開催され、昨年8月にブルガリアを訪問した石井参議院議連会長、2023年に経済産業大臣として約50年振りにブルガリアを訪問した西村議員も出席されました。ラデフ大統領は石井参議院議連会長に対し、「これからも両国の為に議員外交をよろしくお願いします」と述べられました。

4 万博ブルガリア・デー(5月18日)



(1) 藤井外務副大臣出席のもと、万博ブルガリア・デーが多数の来場者を迎え開催されました。4月以降の同館来場者は5万人以上です。大統領は、来場者に対し、ブルガリアはEUのAI分野旗艦事業(EU AI Factory)で欧州内でも最初に拠点に選ばれるなどAI、ITをはじめとするハイテク分野で実績を上げている旨述べ、日本との将来のwin-winの協力に自信がある旨強調しました。また、超小型衛星を製造・運用する企業エンドロサットなどがある旨紹介しました(3年間でバルカン半島他国が打ち上げた小型衛星の総数の3倍以上の打ち上げに成功)。



(2)大統領は、来場したブルガリア語を学ぶ日本人学生を前に、彼らの存在が両国の活発な協力を将来も支えてくれるとしました。会場では、ブルガリア語を学ぶ3大学の日本人学生がブルガリア語の学習成果を披露しました。



5 経済関係

(1)JETROビジネス・フォーラム(5月20日)



ア 大統領出席のもと開催されたフォーラムには、約 150 社の日本企業(製造業、ハイテク産業、科学技術、エネルギー等)が参加しました。その際大統領は、JETRO本部で石黒理事長、片岡副理事長とも会談しました。

イ 大統領は、ブルガリアの戦略的な立地、高度技能を有する若者、有利な税制をはじめブルガリアが外国投資家に提供する利点を強調し、また、今般両国が戦略的パートナーシップを結ぶことが民間部門の経済交流をしっかりと支える政治的基盤になると指摘し、ブルガリアへの投資を促しました。また、両国企業間の実りある協力が促進されるよう、自らイニシアティブを発揮する旨述べました。

ウ 大統領は、ブルガリアには欧州域内で人口当たり最多のIT専門家が存在するこ

と、特に南東欧唯一のAI研究機関INSAITの成果を紹介しました。INSAITは、現在既に世界中から最も優れた研究者を受け入れており、2023年に理研と共同研究等覚書を締結し、2024年にTOYOTAから研究資金協力(ロボット工学・AI分野)を受けています。

エ 道上大使も登壇し、東芝、明治など主要な日本企業がブルガリアに戻りつつあることを含め、ブルガリアにおける日本の投資の成功例を交えつつ、日本企業にとってのブルガリアの魅力を説明しました。また、成功例である東芝及び矢崎総業の代表者も登壇し、日本企業の視点からブルガリアでのビジネスを解説しました。

(2)経団連訪問(5月19日)

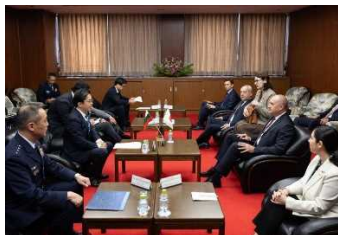
ア 大統領は、経団連を訪問し、ブルガリアが科学、教育及び経済の相互作用について日本のモデルを導入すべきだと考えている旨を明らかにしました。また、経団連をブルガリアに招待し、ブルガリア・日本ビジネスフォーラムを開催したいと述べました。

イ 大統領は、日本企業のこれまでのブルガリアへの投資(共同生産の実施、R&Dセンターの設置、科学交流など)を高く評価し、引き続き経済連携を深める用意がある旨述べました。特に、近年の経済構造改革により、ブルガリアの輸出品の大部分が電子機器及びロボット製品となっている旨紹介し、同じくこれら分野で世界の主要国の一つである日本との協力に大きな可能性があるかと述べました。

(3)大統領はこのほか、5月20日にチャイラ水力発電所復旧事業に参加する東芝を、5月21日にINSAIT(東欧初のAI研究機関)と研究協力を進める理研を訪問し、理研では量子コンピューター等を視察しました。



6 百里基地訪問(5月21日)



(1)ラデフ大統領は、航空自衛隊百里基地を訪問し、金子防衛政務官と懇談した後、F2 型戦闘機(ブルガリア政府が現在導入を進めているF-16 型戦闘機の改良版)を視察しました。

(2)ラデフ大統領は、戦略的パートナーシップが安全保障分野でも両国協力の発展をもたらすことへの期待を表明し、その1つの好例として 2024 年にブルガリア黒海沿岸で行われた機雷掃海演習 Sea Breeze への日本海上自衛隊の参加を高く評価している旨述べました。大統領に対し、航空自衛隊から、大統領のパイロット・コール・サインが銘打たれたヘルメットが贈られました。

7 早稲田大学講演(5月19日)



(1)高円宮妃御臨席のもと行われたラデフ大統領による講演会で、ラデフ大統領は、両国民が文化及び伝統の尊重、教育並びに誠実な労働を通じて繁栄を築こうとする点が共通であるとし、今後は伝統も大切にしつつ、IT、AIなどハイテク分野でも協力を深めていくべきと学生らに語り掛けました。

(2)また、大統領は、学生らの質問に対し、ウクライナについて軍事力による解決は不可能であり、外交を強化し、交渉による解決しかない、自分は元軍人であり、人命の重さを誰よりも承知しているつもりであり、人命の被害がこれ以上拡大することを防ぐべき、米欧間での平和実現への努力がなされており、ロシアに都合の良い世界秩序ができるのは是非とも回避しなければならないと訴えました。

(了)